

ミヤマキリシマ群生地の手入れをする上野さん夫婦
 4月29日、大分県日田市天瀬町



森林再生見守り8年

台風による風倒木被害から森をよみがえらせるために植林されながら、その後荒れてしまった苗木を再び整備するボランティア活動が、大分県日田市天瀬町で続いている。福岡県大野城市の上野誠さん（六十）と朋子さん（六十）夫婦は、八年前から毎月同町の山に通い、植林した木々を手入れしてきた。小さな運動の輪は徐々に広がり、ちょっとした憩いの公園として実を結びつつある。

日田市内の約八千八百畝で風倒木を出した一九九一年の

■ 日田市の荒廃植林地 ■

台風被害。森の再生、都市とヤに覆い隠されていた。農山村の交流を掲げ、ボランティアによる植林が相次いだ。上野さん夫婦は九四年、業日に決め、知人にも参加を呼び掛けた。活動拠点として同町の湯ノ見岳（七四〇）で植林ボランティアに参加。倒木の伐採跡にヤマザクラやモミジなど数千本を植えた。見岳愛育会」を旗揚げした。上野さんは当時、福岡市役所に勤務。「福岡大湯水（七八年）の記憶も重ね、水源の計らいで近くの温泉に無料で森再生にかかわりたいと思った。しかし、地元の過疎・高齢化も影響し、その後十分管理されないうまま。数年後に訪れると、苗木はススキやカエ、参加者は延べ約五百人に

大野城の夫婦 旗揚げ 有志が草刈り活動

同会の十五人は四月二十九日、近くの亀石山でミヤマキリシマ群生地の手入れに汗を流した。定年後の第二の人生を楽しむ人もいれば、マイペースで作業する新婚カップルやOLも。みんなが十年、二十年後の森に思いを広げる。上野さん夫婦は「植林したら終わりではなく、見守っていくことが大切。何本かのヤマザクラは花をつけるようになった。あのとぎのボランティアが自然に集まり、新たな森で同窓会が開けるとうれいすね」と話す。五月の作業日は二十日。上野さん〇九二（五八）二〇五。